

富山経済同友会

会報

2022.5月
No.307



スケッチオーデション決勝大会（3月21日）

CONTENTS

- 【特集】2022年度定時総会 2
- 【提言発表】地域創生委員会 10
- 3月会員定例会 11
- 【講演録】3月会員定例会：森田 創 氏 11
- スケッチオーデション 16
- 第4回人財活躍委員会 19
- 第6回地域創生委員会 20
- 第7回地域創生委員会 22
- 「同友会の日」富山グラウジーズ戦 22
- 課外授業講師派遣 23
- 市町村新任職員研修講師派遣 23
- リレーエッセイ¹⁰⁸（牛島 政彦 氏） 24
- 活動報告 25
- 慶事のお知らせ 27
- 会員の入退会 27
- 事務局からのお知らせ 30
- トピックス（地域創生委員会） 31
- 今後の予定 31
- わが青春の1枚（矢野 茂 氏） 32

2022年度定時総会

— 新代表幹事に牧田和樹氏 —

4月22日(金)、2022年度定時総会がANAクラウンプラザホテル富山で開催され、会場には約200名の会員が出席した。当日はオンライン視聴も可能とし約30名の会員が視聴した。



冒頭、麦野英順代表幹事が開会挨拶を行った。塩井保彦代表幹事が議長を務め、①2021年度事業報告、②2021年度決算案、③2022年度事業計画、④2022年度予算案、⑤新役員選任の5件について審議が行われた。2021年度事業報告では牧田和樹副代表幹事が概要報告を行い、各委員長が活動状況を説明した。また、中村厚会計監事が2021年度決算案の説明を行い、いずれも原案通り承認された。



麦野代表幹事



牧田代表幹事

また、中村厚会計監事が2021年度決算案の説明を行い、いずれも原案通り承認された。

2021年度事業計画では、代表幹事3名・副代表幹事3名体制とすること、企画総務委員会を企画委員会と交流委員会に分け7つの委員会とすることが決定された。

役員を選任では、代表幹事に牧田和樹氏が、副代表幹事には大橋聡司氏と高林幸裕氏が、常任幹事には山野昌道氏、森田弘美氏、中澤宏氏、中沖雄氏が選任された。常任幹事の久郷慎治氏、羽根由氏の退任ならびに10名の新幹事の選任も承認された。

総会終了後、新田八朗富山県知事、中谷 仁 商工労働部長を来賓にお迎えして懇親会を開催した。

塩井代表幹事の開会の挨拶に続いて、新田知事が来賓の挨拶を行い、「中尾哲雄特別顧問が座長となり、富山県成長戦略会議を1年かけて行い、先般、ウェルビーイング向上を政策の柱に据えることを公表したところです。同友会の皆様には新産業創出、スタートアップ、働き方改革、女性活躍などいろいろな分野でご協力をお願いします」と述べた。



塩井代表幹事



新田知事来賓挨拶

続いて、本年1月以降入会された新会員と4月に配属となった事務局員を紹介した。

その後中尾特別顧問がウェルビーイングという言葉が富山だけでなく、国・企業にも浸透しつつあることを紹介し、乾杯した。



中尾特別顧問乾杯

最後に桶屋泰三副代表幹事が「代表幹事3名、副代表幹事3名で力を合わせ、富山経済同友会を盛り上げていきたいと思っています。皆様方の温かいご支援と同友会活動への積極的なご参加をお願いします」と閉会の挨拶を行い、盛会のうちに終了した。



桶屋副代表幹事閉会挨拶

今年度もSDG sを積極的に推進していこう

— 総会・開会挨拶 — 代表幹事 麦野英順

2022年度定時総会開催のご案内をいたしましたところ、この会場には約200名、そしてオンラインで30名と沢山の方に参加いただきました。ありがとうございます。昨年もコロナ禍にもかかわらず積極的な参加をいただき、様々な事業を実行することができました。後ほど各委員長から報告をさせていただきます。

昨年を振り返りますと、1年延期になったオリンピックが開催されました。緊急事態宣言下で無観客となり残念でしたが、日本選手はよく頑張り、我々に勇気と感動を与えてくれました。

また、ワクチン接種、感染予防対策も進んできました。そんな中、社会活動、経済活動が持ち直しております。実際、一昨年の実質GDPの成長率は-5.4%とリーマンショック以来の大きなマイナスでしたが、昨年は+1.6%に回

復しております。

しかしながら、2月にロシアのウクライナ侵攻があり、従来から少しずつ顕在化していた原料高、物流コストの上昇、サプライチェーン確保の問題が益々深刻化してきました。これが長期化しますと、原料高、輸送高、円安という3重苦がスタグフレーションに繋がっていくのではと心配しております。

富山経済同友会は昨年4月に創立60周年を迎え、富山国際会議場で式典を開催し、SDG s宣言をいたしました。以来、「持続可能な企業経営」、「持続可能な人づくり」、「持続可能な地域づくり」の3つをテーマに掲げ活動しておりますが、今年度も産学官との連携を図りながら、SDG sを推進してまいりますので、今年度も皆様方の積極的な参加をお願いします。

— 代表幹事就任挨拶 —

代表幹事 牧田和樹

ただいまは代表幹事にご選任いただきありがとうございます。入会して22年が経ちました。入会した頃は髭を生やしていなかったのですが、代表幹事をお引き受けするにあたり、心機一転、初心を忘れず活動したいという思いで髭を剃りました。経済同友会は会員の皆様あつての会で

すので、会員の皆様が活動する中で非常に有意義な時間だと感じていただけるよう、代表幹事として微力ながら皆様とともに富山経済同友会を運営していきたいと思っております。どうかよろしくお願い致します。

提言を発信し実践していこう

— 懇親会・開会挨拶 — 代表幹事 塩井保彦

新田富山県知事、中谷商工労働部長には、大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で、総会後の懇親会は3年振りでございます。本日、200名近い会員の皆様とともに懇親会を開催できたことを嬉しく思います。

さきほどの総会では、代表幹事3名、副代表幹事3名体制を正式に承認していただきました。これまで以上に他の経済団体との交流・連携、大学などアカデミアとの連携、行政との連携に努めてまいります。

4月12日の幹事会では中尾特別顧問から手紙を頂戴しました。委員会数を削減してきたことで、1委員会の会員数が多く発言の場がないとの声を会員から聞くとのこと指摘がございました。今後、企画委員会で議論を重ねて、委員会のありべき姿を検討していきます。

県内の各自治体に対してしっかり提言を発信し、それを実践・行動する同友会を目指していきますので、会員諸兄の積極的な参加をお願い申し上げます。

60周年記念式典でSDGs宣言を行う 企画総務委員長 桶屋 泰三



当委員会の2021年度の活動について、ご報告させていただきます。

2021年度は、創立60周年記念事業の実施、3回の委員会開催、交流事業として富山県との意見交換、経済同友会中央日本地区会議の参加、新会員歓迎オリエンテーション・懇親会を開催しました。

創立60周年記念事業では、4月に創立60周年記念式典を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に尽力されている医療従事者への支援として富山県に寄付金の贈呈を行った後、SDGs宣言を行いました。また6月には安宅和人氏のオンライン記念講演会を開催しました。

交流事業として、6月には4月に公表した地域創生委員会と人財創出委員会（現人財活躍委員会）の提言について富山県幹部の方々と意見

交換を実施しました。

10月に経済同友会中央日本地区会議が静岡県三島市で開催され、各地同友会との交流を深めました。

11月は新会員歓迎オリエンテーション・懇親会を開催し、新会員・役員との交流を図りました。

委員会活動では、8月の第2回委員会で、ホームページにSDGsの活動を一覧表で掲載していく、SDGs未来都市との連携として富山県のSDGs宣言募集などに協力していく、事務局のデジタル化として、当委員会の開催案内はグーグルフォームを使用してみることとしました。

また、2月の第3回委員会では、委員会数の削減による会員の出席率の変化、副委員長担当制とアドバイザー制導入による委員会の運営状況について意見交換を行いました。事務局のデジタル化は来期の継続案件となりました。

企画総務委員会の活動報告は以上となります。

サステナビリティを経営に実装する 企業経営委員長 伊勢 徹



活動2年目となる2021年度は、持続可能な経営を目指すための諸課題への対応や、あるべき経営者の姿に関して考えることをテーマに活動を行いました。

8月の第3回委員会では、日本銀行富山事務所長 小川万里絵氏をお招きし、経済情勢についてご講演いただきました。第4回拡大委員会は完全オンライン開催で、SDGパートナーズ有限会社代表取締役CEO 田瀬和夫氏から、サステナビリティを経営に実装する方策などについてご講演いただきました。

10月の第5回委員会では、株式会社ナレッジラボ代表取締役CEO 国見英嗣氏をお招きし、事業承継問題とM&Aの活用についてご講演いただきました。

12月には会員定例会を主管し、アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長 大山健太郎氏が

ら、企業が成長し続ける経営の本質についてご講演いただきました。

2月の第6回拡大委員会では、日本銀行金沢支店長 武田吉孝氏から、最近の金融経済情勢についてオンラインでご講演いただきました。

第7回委員会では、一般財団法人北陸経済研究所主任研究員 辻野秀信氏をお招きし、脱炭素社会に向けた企業の取組みについて、事例紹介を交えてご講演いただきました。

ごきげんよう職場訪問は11月に実施し、株式会社エムダイヤとYKK AP株式会社を見学。富山県のものづくり産業の歴史や強みについて見識を深めました。

経営道場は1月に開催し、株式会社エムダイヤ代表取締役 森弘吉氏に発表をいただき、活発な意見交換や多くの質疑がなされました。

景気定点観測アンケートは、7月と12月の2回実施し、新型コロナウイルスによる経営への影響や、SDGs、脱炭素経営、健康経営について調査、公表しました。

以上、企業経営委員会の活動報告を終わらせていただきます。

高度人材の確保育成・活力向上に向けて 人財活躍委員長 中澤 宏



ました。

7月に第1回委員会を開催し、活動計画について意見交換後、株式会社サーキュレーションの大平瑞木氏に、県内企業の副業兼業活用事例についてご講演いただきました。

9月には「地域における高度人材の活用に関するアンケート」を実施し、外国人材や副業兼業人材の活用状況について調査しました。

10月には第2回委員会を開催し、関西学院大学の富田欣和氏に、VUCAの時代に求められる人材についてご講演いただきました。

11月には地方創生テレワークの推進に向け、(公社)経済同友会ワーケーション実証実験に参画し、地方創生に向けた取組みについて意見

活動1年目となる2021年度は、人財創出委員会で策定した提言書「富山県の活性化に資する高度人材の確保育成に向けた新たな協働・連携事業の推進」の実践に向け、活動し

交換を行いました。

12月には第3回委員会を開催し、9月に実施したアンケート結果を報告後、株式会社ヨイチ 高梨洋一氏に、地方企業の高度外国人材の活用についてご講演いただきました。

2月には、合同キャリア相談会「とやナビ2022ーミートアップ富山ー」をオンラインにて開催し、富山への就職を考える全国の学生や社会人計60名に富山の魅力を発信しました。

3月には、第4回委員会を開催し2021年度の総括や2022年度活動計画案について意見交換を行った後、富山県 女性活躍推進課から荻浦明希子氏、サイボウズ株式会社から松川隆氏をお招きし、女性活躍推進をテーマに勉強会、講演会を開催しました。

起業家支援事業「スケッチオーデション」では、約5か月間をかけて、ビジネスプランの考え方をインプット、ブラッシュアップし、参加者を伴走支援しました。3月にビジネスプランコンテストを開催し、16組、計28名から優勝、準優勝、特別賞を決定しました。

人財活躍委員会の活動報告は以上となります。

提言の実践と課外授業講師派遣事業の活性化 教育問題委員長 高瀬 幸忠



活動1年目となる2021年度は、提言の実践、学び方改革の推進、大学との積極的かつ滑らかな連携の3つをテーマに活動を行いました。

前期委員会で策定した提言の実践として、7月と11月に富山県教育委員会との意見交換を開催し、提言内容と県教委における取組みとの関連について議論を行いました。

9月には、新潟経済同友会主管の「第8回5経済同友会教育担当委員会交流会」が開催され、新潟大学における自治体・企業と連携した学外学修に関する事例紹介やパネルディスカッションを県立高校の教諭の方とともに視聴しました。

「課外授業講師派遣」には、小・中・高・特別支援学校計25校に延べ49名の講師を派遣しました。

コロナ禍の影響もあってか「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替としての実施やクラス単位での講義の依頼が多く、過去5か年に比べて派遣校数は約1.7倍、派遣講師数は約2.4倍となりました。制度創設以来の延数は、306校・405名です。

また、教育委員会をはじめ外部機関主催の研修への講師派遣は計10件で、過去4か年の平均に比べて2倍となりました。

2021年度に新たに設定したテーマ「大学との関わり」については、海外との学び方の違いに関する調査として、1月に学校法人浦山学園様にご協力いただき、オーストラリア・クィーンズランド大学へのオンラインヒアリングを開催しました。

同じく1月には第3回委員会として、文化スポーツ委員会による、東京パラリンピックボッチャ日本代表である藤井友里子選手の講演とボッチャ体験会をオンライン配信し、委員に加えて、教員の方にも聴講いただきました。

教育問題委員会の活動報告は以上です。

富山県の活性化方策の検討、実践に向けて 地域創生委員長 山本 覚



活動1年目である2021年度は、創造性とイノベーションの発揮、地域の持続的成長、社会的課題への対応をテーマに活動を行いました。

7月には第1回委員会を開催し、活動方針・活動計画について意見交換し、フィールドワーク実施プラン案を募集いたしました。

10月に第2回委員会を開催し、マカイラ株式会社 藤井宏一郎氏に富山県成長戦略会議中間報告についてご講演いただくとともに、富山大学データサイエンス寄附講座に関する座談会を開催いたしました。同じく10月に第3回委員会として、フィールドワークを実施し、多くの委員に参加いただきました。

1月に第4回委員会として、国際医療福祉大学 武藤正樹氏に「新型コロナで医療が変わる～三位一体改革の行方～」についてご講演いた

だくとともに、富山の地域医療提供体制の現状と今後のあり方に関する座談会を実施しました。

2月に第5回委員会として、地域医療体制のあり方に関する提言案について意見交換を行うとともに、富山県観光推進室長 宮崎一郎氏に富山県の観光戦略・観光振興等についてご講演いただきました。

3月には、MaaSをテーマとした会員定例会を主管し、東急株式会社 森田創氏よりMaaSがもたらす地方社会の未来についてご講演いただきました。同じく3月に、提言「富山のウェルビーイングを下支えする医療提供体制のあり方について」を策定いたしました。本提言は持続的な地域医療提供体制の確保に向け、課題を踏まえた議論の開始を富山県・関係市町村等に求めるものです。

なお、フィールドワークにつきましては昨年度に引き続き小冊子とウェブサイトを作成いたしました。ぜひご活用いただければと思います。

以上、地域創生委員会の活動報告を終わらせていただきます。

神秘の立山信仰の世界と工芸の魅力を学ぶ 文化スポーツ委員長 島田 好美



活動1年目となる2021年度は、郷土の歴史文化や日本の伝統文化の理解促進、スポーツを通じた交流・連携をテーマに活動を行いました。

7月には会員定例会を主管し、元ラグビー日本代表 大野均氏から、日本代表としての覚悟と誇りや、真のチームワークなどについてオンラインでご講演いただきました。

第1回委員会では、立山ガイドの佐伯知彦氏を講師にお招きし、立山信仰の歴史や立山曼荼羅の多様な精神世界などについてご講演いただいた後、立山博物館を視察し、立山信仰の壮大な世界を体感しました。

10月の第2回委員会では、伝統工芸の工房見学と、高岡鋳物発祥の地である金屋町の散策を行った後、平成の大修理で壮麗な伽藍が蘇った

勝興寺を拝観。さらに、勝興寺で開催されていた「GO FOR KOGEI」特別展も観覧し、工芸の新たな価値に触れ、知見を深めました。

1月の第3回委員会は、ボッチャの体験交流会を開催しました。パラリンピックメダリストの藤井友里子選手から、ボッチャとの出会いや企業支援への感謝などについてご講演いただいた後、藤井選手とともにボッチャ競技を体験。パラスポーツを通じて共生社会について考える交流会となりました。

2月の第4回拡大委員会は完全オンライン開催で、内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長 高科淳氏から、2025年大阪・関西万博についてご講演いただきました。

「同友会の日」は、10月にカターレ富山、3月に富山グラウジーズを観戦。コロナ禍の中でも、多くのご参加をいただき、大きな拍手で熱い応援を送りました。

以上、文化スポーツ委員会の活動報告を終わらせていただきます。

2022年度 事業計画

代表幹事・副代表幹事 3 名体制、委員会は 7 委員会に

副代表幹事 牧 田 和 樹

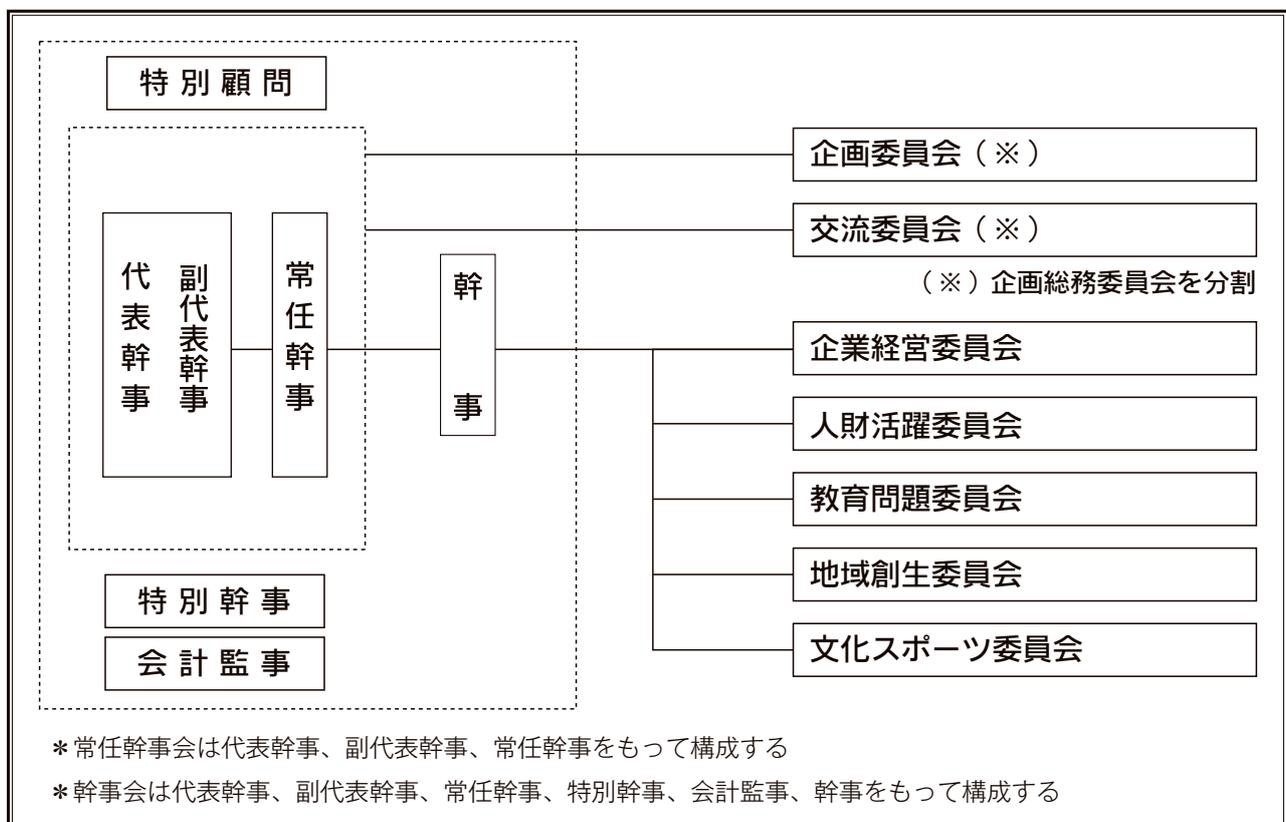
2022年度の活動方針ですが、1点目は体制面の変更です。代表幹事を3名体制とし、副代表幹事も3名で進めてまいります。委員会は企画総務委員会を企画委員会と交流委員会の2つに分けることにいたしました。

それぞれの委員会活動は資料に記載のとおりですが、活動2年目になりますので、2021年度の活動を踏襲しつつ、活動を仕上げていくこと

になります。

委員会数が少なくなって、1つ1つの委員会の規模が大きくなっております。課題やテーマに応じて小委員会の形で活動することを推奨しておりますし、その中で来年度に単独の委員会として発展することも期待しているところです。来年度の委員会体制については企画委員会ですっきり検討していただくこととなります。

組織図



【委員会：委員長 / アドバイザー】

(敬称略)

委員会名	委員長	アドバイザー
企画委員会	高林 幸裕	
交流委員会	中沖 雄	大橋 聡司
企業経営委員会	伊勢 徹	白倉 三喜、池田 安隆、石坂 兼人
人財活躍委員会	浅林 孝志	津嶋 春秋、白倉 三喜、中澤 宏
教育問題委員会	高瀬 幸忠	稲田 祐治、池田 安隆、森田 弘美
地域創生委員会	山本 覚	稲田 祐治、山野 昌道、森田 弘美
文化スポーツ委員会	島田 好美	津嶋 春秋、石坂 兼人、山野 昌道

富山経済同友会 役員名簿 (2022年度)

(敬称略、◎は新任)

特別顧問

【特別顧問】7名

山田 圭 藏 元 北陸電力(株)会長
 古田 暉 彦 元 北陸電力(株)副社長
 中尾 哲 雄 元 (株)インテック会長
 高木 繁 雄 (株)北陸銀行特別参与
 久和 進 北陸電力(株)相談役
 米原 蕃 米原商事(株)会長
 新田 八 朗 元 日本海ガス絆ホールディングス(株)社長

役員

【代表幹事】3名(うち、新任1名)

麦野 英 順 (株)北陸銀行取締役会長
 塩井 保 彦 (株)広貫堂代表取締役
 ◎牧田 和 樹 (株)牧田組取締役社長

【副代表幹事】3名(うち、新任2名)

桶屋 泰 三 桶屋税理士事務所所長
 ◎大橋 聡 司 大高建設(株)取締役社長
 ◎高林 幸 裕 北電産業(株)取締役社長

【常任幹事】9名(うち、新任4名)

津嶋 春 秋 (株)アーキジオ取締役会長
 白倉 三 喜 富山日産自動車(株)取締役会長兼社長
 稲田 祐 治 加越能バス(株)相談役
 池田 安 隆 (株)池田屋安兵衛商店代表取締役
 石坂 兼 人 石坂建設(株)取締役社長
 ◎山野 昌 道 (株)チューリップテレビ取締役社長
 ◎森田 弘 美 (株)グループフィリア代表取締役
 ◎中澤 宏 (株)北陸銀行取締役常務執行役員
 ◎中沖 雄 (株)富山銀行取締役頭取

【特別幹事】16名(うち、新任2名)

金岡 純 二 (株)富山第一銀行取締役会長
 永原 功 北陸電力(株)特別顧問
 林 和 夫 朝日建設(株)取締役社長
 松原 吉 隆 大同産業(株)取締役社長
 多田 慎 一 第一物産(株)相談役
 金尾 雅 行 富山港湾運送(株)取締役社長
 酒井 正 人 富士商事(株)代表取締役
 稲葉 実 (株)三四五建築研究所主宰
 藤谷 和 彦 (株)OSCARホールディングス取締役会長
 金岡 寛 金岡忠商事(株)取締役会長
 伊勢 彦 信 イセ食品(株)名誉会長
 若林 啓 介 (株)若林商店取締役社長
 川本 元 充 北陸機材(株)取締役会長
 本田 百合子 アシシステム税理士法人代表社員
 ◎久郷 慎 治 (株)久郷一樹園代表取締役
 ◎羽根 由 (株)生活ネット研究所代表取締役

【会計監事】2名

板谷 聡 板谷経営工房(有)取締役社長
 中村 厚 日本クレアスコンサルティング(株)代表取締役

【幹事】87名(うち、新任10名)

四十物 直 之 (株)四十物昆布取締役会長
 浅野 雅 史 (株)バロン代表取締役
 ◎浅林 孝 志 (一財)北陸経済研究所理事長
 池田 治 郎 富山いすゞ自動車(株)取締役社長
 石倉 央 (株)FP不動産センター代表取締役
 伊勢 徹 (株)ライフサービス代表取締役
 市森 友 明 (株)新日本コンサルタント取締役社長
 伊東 潤一郎 アイティオ(株)取締役社長
 稲垣 晴 彦 北陸コカ・コーラボトリング(株)取締役会長
 稲田 裕 彦 救急薬品工業(株)代表取締役
 井上 敏 夫 井上機材(株)代表取締役
 庵 栄 伸 (株)北陸銀行取締役頭取

今井 壽子	(有)ゼフィール相談役	針田 正尚	クリーン産業(株)代表取締役
梅川 雅之	富山信用金庫常勤理事	東出 悦子	(株)アイベック代表取締役
梅田 ひろ美	(株)ユニゾン取締役会長	福島 鉄雄	(株)エフテック取締役社長
浦山 哲郎	(学)浦山学園理事長	福田 可也	(株)クレハ口取締役会長
奥野 博之	オークス(株)取締役会長	藤井 久丈	医療法人社団藤聖会理事長
押田 洋治	(株)押田建築設計事務所取締役社長	細川 泰郎	細川機業(株)取締役社長
尾城 敬郎	三菱商事(株)北陸支店長	本間 比呂詩	オリジン工業(株)取締役社長
小竹 秀子	オダケホーム(株)取締役社長	増山 一雄	増山電業(株)代表取締役
片山 浄見	(株)富山育英センター取締役会長	松嶋 重信	(株)司ファシリティーズ専務取締役
金子 政史	佐藤工業(株)顧問	松田 光司	北陸電力(株)取締役社長
川合 紀子	(有)ステップアップ代表取締役	松田 登	ファインネクス(株)取締役会長
河上 弥一郎	河上金物(株)取締役会長	水口 昭一郎	立山科学(株)取締役会長
神崎 直志	三井物産(株)理事北陸支社長	翠田 章男	(株)トンボ飲料取締役社長
木村 準	(株)日本抵抗器製作所取締役社長	◎宮本 一成	全日本空輸(株)富山支店長
金田 俊樹	(有)きんた代表取締役	村尾 于尹	(株)村尾地研取締役会長
黒田 昭	(株)三田商会相談役	◎森 弘吉	(株)エムダイヤ代表取締役
小柴 順子	(株)コージン会長	森 幹男	森商事(株)代表取締役
小杉 康夫	G R N(株)専務取締役	森田 忠雄	(株)富山県義肢製作所取締役会長
小林 紀男	富山日野自動車(株)取締役会長	森田 幸弘	(株)押田会計取締役社長
◎酒井 郁生	(株)シー・エー・ピー代表取締役	森藤 正浩	正栄産業(株)代表取締役
渋谷 清澄	(株)エヌエスプレーン取締役社長	矢野 茂	北陸電気工事(株)取締役社長
島田 俊晴	(株)島田樹脂代表取締役	山口 昌広	北酸(株)取締役社長
島田 好美	(株)島田商店代表取締役	山下 清胤	三協立山(株)相談役
高木 悦朗	T S K(株)代表取締役	山瀬 孝	(株)ジェック経営コンサルタント取締役社長
高瀬 幸忠	(株)スカイインテック取締役社長	◎山田 恵子	山田工業(株)取締役社長
高田 順一	阪神化成工業(株)取締役会長	◎山村 隆彦	(株)日立製作所北陸支社長
高田 千明	高田食糧(株)取締役社長	山本 小恵	山本司法書士事務所所長
高野 二郎	タカノ建設(株)取締役社長	◎山本 覚	(株)日本政策投資銀行富山事務所長
武内 繁和	武内プレス工業(株)取締役社長	遊道 義則	(株)ユニオンランチ取締役社長
竹内 茂	(株)婦中興業取締役社長	吉岡 隆一郎	(株)文苑堂書店取締役会長
舘 直人	たち建設(株)代表取締役	吉田 登	北登精機(株)代表取締役
田村 元宏	(株)タムラ設計 代表取締役	米田 祐康	金剛薬品(株)取締役会長
土屋 誠	日本海ガス(株)取締役社長	◎依藤 慶太	野村證券(株)富山支店長
寺崎 敏治	富山製紙(株)取締役社長	綿貫 勝介	トナミホールディングス(株)取締役社長
寺下 利宏	(株)ソシオ代表取締役		
東澤 善樹	とうざわ印刷工芸(株)取締役社長		以上
◎中川 雅弘	(株)K E C 代表取締役		(2022年4月22日現在)
永田 義邦	(一財)北陸予防医学協会理事長		
丹羽 誠	(有)ライフプラン研究所代表取締役	※当会では役職が代表取締役会長、代表取締役社長の	
◎長谷 佳子	(有)小杉スポーツ代表取締役	場合、「代表」は省略させていただいております。	
長谷川 達雄	中央薬品(株)代表取締役		

持続的な地域医療提供体制の確保に向けて

— 地域創生委員会、提言を発表 —

地域創生委員会(山本覚委員長)は、今次活動のうち令和3年度分の成果のひとつとして提言『富山のウェルビーイングを下支えする医療提供体制のあり方について』をとりまとめ、3月幹事会での審議を経て3月16日(水)に発表した。

地域創生委員会では、人口減少・少子高齢社会の進行を見据えた医療提供体制の持続的な確保は、これか



提言を発表する(左から)
市森副委員長・山本委員長・
石坂アドバイザー

らの富山県全体の持続的発展や富山県成長戦略に掲げる「ウェルビーイング」の実現を下支えする重要な要素であるとの認識のもと、経済界から見た医療提供体制の現状や課題の整理、先進事例の調査に加えて、有識者や専門家による講演会・座談会の開催による知見の習得・深化などを行ってきた。

提言では、富山県内の二次医療圏のうち最大規模である富山医療圏を題材とし、今後の人口や1日あたり患者数の推計などを通じ、現状として医療機能ごとの必要病床数と患者数との乖離や医療従事者数の確保、主要病院の建替え時期が重なり、自治体財政の大きな負担が生じる

ことなどを明らかにするとともに、将来的な病床再編や主要病院建替え時の集約・一元化による効率的な運営、医療従事者のさらなる活用などを課題として整理した。

これらを基に、次期医療計画(富山県にて策定)においてこれらを盛り込むことによる「短期的・長期的課題を踏まえた議論の開始」を富山県・関係市町村等に求めることを狙いとして、①感染症・災害医療に対応可能な新病院の建設、②地域医療連携推進法人化を軸とした再編、③主要病院の病床再編、病床削減計画の集約・一元化、④高度急性期・急性期病床の再編に向けた協議の場の設置、⑤新たな視点による医療従事者の活用、について提言した。

提言の概要は下記のとおり。

〈委員長所感〉

持続可能な医療提供体制の構築は、今後も富山が「選ばれるまち」となるための重要な項目です。財政負担・コロナ対応等を踏まえ、競争よりも「協調」が大切であり、今後は病院間の「連携」も重要になってくると思います。

市森副委員長をはじめ、提言作成にあたりご協力賜りました皆様に心から感謝申し上げます。



山本委員長

提言の概要

○提言の趣旨

整理した現状・課題の観点を次期医療計画(2024年度策定)の基本的な考え方として盛り込むため「短期的・長期的な課題を踏まえた議論の開始」を富山県・関係市町村等に求める

○提言の構成

1. 現状認識

富山医療圏を題材に、現在の医療受給状況や将来患者数などを推計・整理

2. 課題の整理

現状や将来推計結果を踏まえ、特に高度急性期・急性期医療における、経済界から見た短期的・長期的な課題を整理

①病床再編及び削減等、②病院の建替えと建設費、③医療従事者の活用、④有事対応

3. 提言

持続可能な高度急性期・急性期医療提供体制のあり方について、以下のとおり提言

- ①感染症・災害医療に対応可能な新病院の建設
- ②地域医療連携推進法人化を軸とした再編
- ③主要病院の病床再編、病床削減計画の集約・一元化
- ④高度急性期・急性期病床の再編に向けた協議の場の設置
- ⑤新たな視点による医療従事者の活用

MaaS が拓く今後の地方創生

森田 創 氏講演 — 3月会員定例会 —

3月会員定例会が3月7日(月)、オークスカナルパークホテル富山で開催され、東急(株) (合同会社うさぎ企画 代表)の森田創氏が「MaaS がもたらす地方社会の未来」と題して講演を行った。講演会は地域創生委員会(山本覚委員長)が主管し講師と会場をオンラインで結びリモート登壇の形でわれ、会員約160名が参加した。



山本委員長

森田氏はまず、MaaS(Mobility as a Service)の定義と歴史について解説し「日本のMaaSは遅れているといわれるが真逆。世界はほぼ交通統合型だが日本では交通以外のサービスを包括的に含んでいる。数年後、日本のMaaSの素晴

らしさに世界も気づくだろう」と強調した。

次に、2018年に静岡・伊豆半島において我が国初の観光型MaaS実証実験を立ち上げた経緯とともに、利用状況の分析と提供サービスへの反映、地元タクシー会社や観光・生活利便施設との連携によるフェーズ展開により利用が大幅に増加したことを紹介した。

最後に、テレワークやワーケーションの普及により職・住・遊のシームレス化の進行が見込まれる中、デジタル化は手段であり目的ではないとし「そこに行かなければ出会えないもの・人と、唯一無二の時間を過ごす“価値体験”が目的である」と語った。さらに「地方社会の未来に対する答えはない。試行錯誤しなければ正しさにたどり着けない難しい時代だからこそ、リーダーシップが必要。これは“指導力”ではなく“始動力”である」と訴え、講演を締めくくった。

3月会員定例会 (2022. 3. 7) 講演録

「MaaS がもたらす地方社会の未来」

講師：東急株式会社 (合同会社うさぎ企画 代表) 森田 創 氏



(講師プロフィール)

1999年3月東京大学教養学部卒業。同年4月東急電鉄入社。海外事業部、社内ベンチャー制度による新規事業立ち上げ、渋谷ヒカリエ内のミュージカル劇場「東急シアターオーブ」の開業責任者、広報課長を経て2019年4月、日本初の観光型MaaSを伊豆半島で開始。東急沿線での都市型MaaSを立ち上げたほか、宮崎など全国各地のMaaS計画に関与するなど、国内で第一人者として知られる。2014年からノンフィクション作家としても活動し、「洲崎球場のポール際」(第25回ミズノスポーツライター賞最優秀賞)、「紀元2600年のテレビドラマ」、「MaaS戦記」を講談社からそれぞれ出版。2021年10月、合同会社うさぎ企画を創業し、静岡県内外での地方創生事業を手掛ける。

◆ MaaS の定義

MaaSは、電車やバス、タクシー等の複数の交通をスマホで一括して予約・決済し、利用できる仕組みです。従来、各公共交通で行って

たことが一つのアプリで一元的に可能になります。目的は、住民や来訪者の移動と生活の自由を守り、地域を活性化することです。MaaSができれば公共交通で目的地に行けますので、人

の移動がスムーズになり、高齢者も安心して免許を返納できます。

この仕組みは、交通各社の相互連携により、時刻表や料金等いろんなデータを統合してスマホにオール・イン・ワンにすることで可能になります。そして、少子高齢化が進む中で、限られた車両や運転手を有効活用するため、利用者のデータを最大限に活用します。例えば8時に駅、9時にスーパーマーケット、10時に病院など、複数人が持つばらばらの移動ニーズでも、利用者データをスマホで車両と連絡し合うことにより、1台で満たすことが可能になります。

MaaSの始まりは2016年、フィンランドのWhim（ウィム）です。520万人という少ない人口の有効活用、外出も控えなくなる冬の雪深さ、ノキアに代表される先端産業や高いITリテラシーの存在、そしてCO₂削減に向けた、政府主導による公共交通の利用促進と、同国には、いかにデータを活用しながら少ないモビリティで移動ニーズを実現するかというMaaSが始まる素地があったのです。その後、欧州でも次々にMaaSが立ち上がりました。

もともと欧州では、2025年までのEV化を政策目標に掲げていました。それは自動運転を前提にしており、マイカーから公共交通へのマインドシフトを強く促す意味を持つほど圧倒的なマイカー社会でした。Whimでは、首都ヘルシンキの1か月の駐車場代よりも全公共交通乗り放題の料金を安くすることで公共交通の利用を促しています。

一方、日本のMaaS元年は2019年で、私が携わった伊豆の案件が第1号でした。当時、日本語の文献はなく、数少ない海外の論文を参考に、また実際にフィンランド等に通うことでの見よう見まねでした。今は約20団体が各地域の形のMaaSに取り組んでいます。

日本のMaaSは世界に遅れていると言われますが、真逆です。世界共通のMaaSの定義は、乗り物に限る交通統合型MaaSです。しかし、日本の鉄道会社は、鉄道以外のサービスを包括的に営んでいますので、観光型MaaSであれば、観光施設やホテルを、都市型MaaSであれば、住宅やオフィス、小売店舗をパッケ

ージにすることができます。

ですから、交通のみならず、最終目的地までをオール・インクルードで持つ日本の鉄道会社の事業特徴が世界最高のMaaSだと、あと数年で世界も気づくでしょう。

◆ 日本初、伊豆半島での観光型MaaS

4年前、東急の野本社長から「MaaSをやれ」と言われましたが、広報課長の私は言葉も知らず、「まーす？」と聞き返して叱られました。そして、スマホも十分使えないIT音痴の私が日本初のMaaSをどう立ち上げればいいのか、途方に暮れました。

そうした中で、まず伊豆での実証実験を思い立ちました。理由は4つあり、東京から近くて準備が容易。グループ会社施設の伊豆集積があり、アウエーではないこと。2019年4月からの静岡デスティネーションキャンペーン。そして、大事なものは、急速な高齢化による地元交通・観光基盤の弱体化に歯どめをかけることでした。

現在、伊豆半島の高齢化率は45%、約33万の人口も減少を続けております。多くの観光資源が集まる中、JRや東急など鉄道が5路線、バスが390系統、タクシーも数社ありますが、来訪手段の8割は自動車でした。

この観光型MaaSは「Izuko」と名づけました。いずこにも行ける便利さと伊豆半島の「いず」をかけ、女子旅にもと、女性名を意味する「こ」をつけたのです。情報をスマホでオール・イン・ワンにし、分かりやすく満足度を高めることで観光客を増やすと同時に、利用者のデータを活用することで、少ない人数でも同じ質のサービスが保てるように、伊豆を持続的に活性化させるハブとしてつくり上げました。

しかし、実証実験のフェーズ1（実施期間2019年4月1日～6月30日）は、突貫工事準備したのでアプリも不具合が多く、新幹線が停車する熱海から伊東までの在来線区間が含まれていなかったりと、限定的なサービスで終わりました。

Izukoでは、アプリ上でデジタルフリーパスを購入すると立ち上がる画面を電車の改札口やバスの運転手に見せることで、一定のエリアを

KOUENROKU

乗り放題にしました。また、下田の旧市街は、観光施設をはじめ地元の生活利便施設が多いのですが、江戸時代からの町並みで道幅が狭く、バス会社も入れない交通空白地帯でしたので、地元のタクシー会社と組み、ジャンボタクシーを使ったオンデマンドの乗り合い交通サービスを立ち上げました。

目標として、半年でアプリのダウンロード数を2万、デジタルパスを1万枚としました。ダウンロードは3か月で目標を超えましたが、パス枚数は大幅に伸び悩みました。アプリが少し使いづらく、サービスエリアとメニューが限られ、商品としての魅力不足があったため、これを反省点としてフェーズ2になだれ込みました。

フェーズ2（2019年12月1日～2020年3月10日）では、熱海・伊東間など伊豆半島に向かう主な動線は徹底的にカバーしました。商品数を倍以上に増加し、アプリ画面も大幅に操作性を向上。下田のオンデマンド交通も運行エリアを約3倍に拡張したことで、東京へ帰るまでの限られた時間を、観光施設を回って無駄なく楽しめるようにしました。また、スマホを使うのが難しい高齢者にも、デマンド交通の日常移動での使用に向け、自宅のテレビで配車予約が可能なデバイスを自社開発しました。そして、遅れていたキャッシュレスサービスを導入し、お得に観光体験いただけるメニューをIzukoに加えました。

努力のいかももあり、フェーズ2では、最後の一月はコロナで大分削られながらも、フェーズ1の約5倍の実績を上げることができ、改善の試みは一定程度成功しました。

続くフェーズ3（2020年11月16日～2021年3月31日）は、社会実装に向けての最終フェーズとして臨みました。まず、エリアは、フェーズ2に加え、西伊豆から静岡空港までの約130キロをカバーする超広域型としました。アプリはさらに使いやすく、観光商品は125と、フェーズ2の6倍に増強。登録や決済の方法も多様化するとともに、密を避けた安心観光のため、スマホで駅や観光施設の混雑状況がリアルタイムで分かるようにしました。



しかし、フェーズ3は、期間の54%が緊急事態宣言中で、チケットの販売も12月末から2月上旬までは開店休業状態と、目標の約半分の枚数で終了しました。

◆ 東急沿線 MaaS × コロナ下の働き方

ここからは都市型MaaSの話です。実はIzukoを始める数か月前に、たまプラーザ地区で小さなMaaSの実験をしていました。そして、Izukoで得た知見を基に、2020年、いよいよ本丸・東急沿線だと思っていた矢先にコロナが来ました。東急沿線は都心に通勤するホワイトカラーの方が多地域ですので、コロナによるテレワークで大打撃を受けました。

東急線の中で、郊外と都心を結ぶ象徴的な路線が田園都市線、略称「田都」ですが、郊外の住宅街からバスで最寄りの駅まで行って電車で都心に向かう従来のシンプルな移動形態がコロナで変わった中で、新しい移動の在り方を見つける。その重点テーマが田園都市線での移動事業でしたので、実証実験名を「DENTO」としました。

DENTO実験のテーマは、どうすればコロナ下でも移動量が増えるのか。外出が怖いといって家に籠もられてしまうと、東急にとってはゲームセットだからです。

まず、鉄道は密、帰宅時間帯の混雑も嫌との声が結構ありましたので、都心から横浜市青葉区まで、破格の値段で、相乗りの高級ハイヤーでゆったりと帰宅できる新たな移動サービスを始めました。また、動くシェアオフィスとして、Wi-Fiやトイレ付きの通勤高速バスを郊外から都心の間で走らせました。

また、従来東急がまちづくりの起点とした駅は、コロナによって家になりました。駅まで行くのは面倒、でも家では仕事に集中できない。手近で快適な空間もないということで、DENTO に合わせてカフェやスポーツジム等、快適にテレワークできる施設を造りました。

そして、交通費のハードルを大きく下げました。それが100円チケットですが、東急線の通勤定期保有者限定で、通常680円する東急線、520円する東急バスの1日乗り放題券をそれぞれ100円で購入可能に。加えて、アクティブクーポンとして、映画館や商業施設など沿線グループ施設を中心とした優待クーポンをLINEで配信しました。100円チケットとアクティブクーポンの組合せによる人の移動量を検証したかったからです。

DENTO には、短期間で約2万人が会員登録したのですが、100円チケット購入者の45%が商業施設に足を運びました。そして、クーポン利用者の客単価としては、2,500円から3,000円ありましたので、交通のハードルを下げることである程度客足が伸び、グループ内外の施設でお金を落とすことだけにとどまらずに確認を得ました。

また、たまプラーザ以西の在住者の移動データを見ますと、用事もなく、定期区間外と思われる品川や横浜方面に出向かれたり、15時以降に利用頻度が落ちることも分かりましたので、商業施設のクーポンと組み合わせ、閑散時間帯の交通需要を上げることで新たな消費が生まれるという仮説を得て、商品の実装化に取り組んでいます。

◆ 誰も知らない「Beyond MaaS」

今月末で東急を辞めて独立します。コロナで先が読めない中ですが、今後どういう地方創生があるのかを追求していきます。

コロナ前、仕事は都心、居住は郊外、遊びは伊豆のようなリゾート地でしたが、コロナ後は、自分の家でテレワーク、伊豆でワーケーションができます。一方、コロナで経営が厳しくなり、首都圏の大きな企業等では副業解禁が進んでいます。そうすると、テレワークで東京の仕事をしながら、不要となった通勤時間を使い、自分

の得意なことを生かして副業ができます。つまり、コロナ後は、それぞれの価値観やライフスタイルに合わせて、職・住・遊がシームレスな状況になります。それをスマホ一つでTPOに応じて最適な形で選べますので、MaaSは今後ますます求められるものになるでしょう。

・ MaaS が直面する景色

ただ、便利、快適になれば移動は増えるというMaaSに対する従来の考え方は、コロナで移動総量が減ったので、必ずしも当てはまりません。そこで必要となるのは、運営コスト低減と移動需要喚起（スマートシティ、新しい人の流れ）の2つの仕組みです。

まず、運営コスト低減ですが、最新事例としてJR四国と徳島バスによる一部料金共通化があります。閑散区間や人員対策として、並行ルートで競合するのではなく、電車の定期券でバス、バスの定期券で電車も乗れるように相互補完する日本初の試みです。また、JR九州と西鉄も相互連携を強化しています。例えば西鉄バスの中の下曾根駅前行き料金表の隣に同駅からのJR九州の時刻表を表示。お返しに、JR戸畑駅では、みどりの窓口横に西鉄バスの定期券販売窓口が設置されました。

一方、移動需要喚起の取組ですが、富山市ではスマートシティ構想が推進されており、岸田内閣になってデジタル田園都市構想も言われております。

ただ、「デジタル化」という言葉の氾濫には少し違和感を覚えます。デジタル化とは、人口が減少する中で作業を省人・効率化するため、機械でもできるように暗号化して自動化するプロセスのことです。従来駅や停留所にあった時刻表・料金表データを取り込み、目的地までの乗換えや料金をスマホ表示するのがデジタル化の第1段階です。加えて、全交通データを相互連携し、目的地までの切符がスマホで一括決済できるのがMaaS、さらに行政、医療サービスとも連携して一括決済や予約ができるのがスマートシティです。

デジタル化は手段であり、目的ではありません。また、目的は、そこに行かなければ味わえない物、出会えない方々と唯一無二の時間を過

KOUENROKU

ごす「価値体験」で、東京のまねではなく、その都市らしさの追求が大きな差別化の要素になります。コロナによって、リアルな体験の質が問われ、その価値が何倍にも増す時代になりました。ですから、リアルで体験したいものがあることが、今後まちづくりをしていく上での絶対条件であり、その価値はアナログ、ローカル、そして属人的なものから生まれます。

テレワーク、ワーケーションにより、東京から地方都市へ人材が流れていく、またサイドビジネス「副業」ではなく、マルチジョブズ「複業」を持つ世の中になりました。

Izuko をきっかけに、伊豆の経営者には、相談相手や管理職の教育役、プロジェクトマネジメント等で人材が足りない悩みがあることを知りました。しかし、それは大企業の総合職社員であれば対応できます。失礼な言い方ですが、コロナで経営が苦しくなりポストが減った本社で有能な人材が冷や飯を食べているよりは、自分の得意を生かして複業をすれば、伊豆の経営者、その人材共に喜んでいただけるという思いつきで、去年6月、首都圏の複業人材と地元経営者のビジネスマッチングを伊豆でスタートさせました。

・今後の地方創生

関係人口の方々による新しい取組の事例を紹介しますと、長野県の千曲市で、温泉のワーケーション客が、当地の足回りをよくするために、地元の方々と共同して温泉 MaaS を立ち上げました。これも千曲市ですが、寅さんの映画にあるような、温かいコミュニティ的なゲストハウスづくりの夢を持つ女性がいて、関係人口の方々がそれぞれの得意を生かしてその実現に力



を貸し、銀行の融資も下りて、間もなく完成します。

つまり、移動の需要を喚起することが大事で、その土地に合った魅力をつくり出すことで出てくる新しい動きが地域の活性化につながるのです。

MaaS は地域活性化の手段として始めましたが、それ単体では多くの人を伊豆に引きつけるには至りませんでした。そして、地域活性化が目的なら、多くの人を連れてくるのが正解かは疑問です。1万人の観光客より、寅さんハウスの協力仲間のように、地域に貢献してくれる人を100人連れてきたほうが実は地元のためになります。

一方、デジタルだからできる地方創生もあります。新潟県の旧山古志村、美しい棚田、棚池を持つ風光明媚な場所ですが、人口も約800人と少なく雪深く、アクセスが悪い。そこで、当地で有名な錦鯉をモチーフにしたデジタルアート「NFT」を販売し、デジタル村民票を交付します。そして、その購入者同士で仮想村民会議を行い、実際に行かなくても山古志のまちおこしに力を貸すような新しい取組も始まっております。

◆ 試行錯誤で見いだす答え

「MaaS がもたらす地方社会の未来」について話してきましたが、結局、答えはありません。だからこそリーダーシップが必要なのです。リーダーシップには「指導力」のイメージがありますが、そうではなく「始動力」。そして、マネジメントとの違いは、「Management is doing the things right, Leadership is doing the right things.」。つまり、マネジメントは物事を正しい手順で行うが、リーダーシップに手順は関係なく、正しいことは誰が反対しても行うと、先週ある講演でお聞きして、すごく腑に落ちました。

試行錯誤する中でしか正しさにたどり着けない難しい時代です。だからこそ東急というお世話になった看板を脱ぎ捨て、今後個人事業主として生きていきますが、失敗も重ねながら、いつかは向こう岸にたどり着きたいと思います。



ビジネスを作るとは「仲間をつくること」

～ スケッチオーデション Day 9 – Day11～

人財活躍委員会の起業家支援事業「スケッチオーデション」は富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チームと共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテストであり、11月からグループワークや講義を通してビジネスアイデアやビジネスモデルの考

え方のインプットやメンターからのフィードバックによるアイデアのブラッシュアップ、先輩起業家からの特別講演などが行われてきた。またDay10からDay11には予選大会、決勝大会を開催し、優勝、準優勝、特別賞が決定された。

● Day 9 (3月12日(土))

Day 9は起業家の栗原志功氏(株)あなたの幸せが私の幸せ 代表取締役)をお招きし、「君はもう決めているんだろ?～後悔しない人生の選び方～」と題し講演会を開催した。栗原氏は起業し、通信、介護、人材育成などを中心に自社を成長させ、会社経営の一方で慶應義塾大学や福岡大学などで講師を務めるほか、ギネス記録の保持や世界一長い会社名の代表を務めるなど、様々な分野で活躍している。

栗原氏はまず、大学に通わず路上販売をしていた頃を振り返り、利益を取っているのにも関わらず、お客様に感謝されたという経験が自身の商売の原点となったと語った。



栗原氏

また、「報酬＝お金」といった考え方であると人間関係がお金だけになると警鐘を鳴らし、取引先を業者扱いしない、従業員を幸せにする、といった考え方を伝え、「関わる人は全て仲間」「いかに人を巻き込むか」「応援してもらえる人(会社)を目指せ」と参加者に語りかけた。

その後も、栗原氏の非常にユニークな経験や

エピソードの紹介があったほか、参加者との活発な質疑応答もなされ、会場は大いに盛り上がった。

栗原氏のユニークな話のなかには、一貫して「自分のやりたいことに素直になる」「やっておけばよかったという後悔ほど辛いものはない」といった示唆があり、「既に皆さんは一步を踏み出している。次の二歩を何とか踏み出してほしい」と熱く語り、一同を激励した。

講演後は栗原氏やスケッチオーデション総合プロデューサー 富田欣和氏(関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 教授)や渡辺今日子氏(慶應義塾大学 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授)、メンターらが最後のメンタリングやフィードバックを行い、参加者らは自身のビジネスプランをブラッシュアップした。



栗原 志功(くりはら しこう)氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了。22歳で携帯電話の路上販売を始める。健康ランドに7年間寝泊まりし、その後電化製品がない暮らしを3年過ごしつつ、「携帯電話販売日本一」を何度も獲得。現在、介護・携帯電話・人財教育・障がい者就労支援など、経営する会社は12社。当時1人で始めたが今では従業員数1300人。世界中の人々を幸せにするために「幸福学」を研究し実践。世界の幸せを知ろうと世界4周・75カ国を訪問した経験を持つ。

● Day10 (予選大会)〔3月19日(土)〕

予選大会は富山大学 黒田講堂で開催され、16組28名の参加者がプレゼンを行った。審査員を富山経済同友会（人財活躍委員会）のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チームから選出し、審査を行った。冒頭、塩井代表幹事が開会挨拶を述べ「今の日本経済を再度成長させるためには、新たな価値を生み出すスタートアップ企業が必要であり、皆さまの中からそのような企業が出てくることを期待している」と激励した。

予選大会は7分間のプレゼンと3分間の質疑応答で進められ、半年間の学びを活かしたビジネスプランが発表された。審査員からも活発な

質疑がなされ、会場は大いに盛り上がりった。

創意工夫に富んだアイデアに優劣がつけ難く、審査は難航したが、予選大会では8組が勝ち上がり、決勝大会に進むこととなった。

終わりに、中澤委員長が「予選で敗れた方も引き続き事業化に向けてトライを続けてほしい。決勝大会もとても楽しみである」と予選大会を締めくくった。



● Day11 (決勝大会)〔3月21日(月・祝)〕

決勝大会はホテルグランテラス富山で開催された。予選大会を勝ち上がった8組がプレゼンを行い、来賓には総務副大臣 田畑裕明氏、富山市長 藤井裕久氏にお越しいただき、当会会員のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チームから多くの関係者が駆け付けた。プレゼン者には緊張した面持ちも伺えたが、「楽しみだ」という声が多く上がっていた。

決勝大会は7分間のプレゼン後、質疑応答の時間が更に7分間設けられ、審査員としてベンチャーキャピタルから3名の方にお越しいただいた。

初めに、麦野代表幹事から開会挨拶があり、「2回目の開催となるスケッチオーデションでは、学び合い、アイデアをブラッシュアップする期間を設けた伴走型のビジネスプランコンテストとさせていただいた。富山でも起業を支援する機運が高まっており、5か月間の学びを経て更に予選を勝ち上がってきた皆様のプランを楽しみにしている」と述べた。

続いて来賓挨拶として、田畑総務副大臣から「これまで培った仲間との絆なども思い出し、

自分の言葉で堂々とプレゼンしてほしい。グローバル化やデジタル化といった新しいエッセンスも考えながらビジネスプランを成功に導くことを期待している」、藤井富山市長からは「本事業をきっかけに、富山にも意欲的な人材を周囲が応援していくといった起業文化が生まれ、富山市のスマートシティの推進、エコシステムの形成に繋がることを大いに期待している」と激励の言葉が贈られた。

8組のプレゼンからは、VR技術を用いた住宅展示サービスや、芸能プロダクションによる表現力育成アプリなど、各々が考え抜いた新しい価値が熱心に提案された。審査員からの質疑やフィードバックも活発になされ、真摯に受け答える様子や、新しい気づきを得る様子がプレ



田畑総務副大臣



藤井富山市長



麦野代表幹事



ゼン者から伺えた。

厳正な審査の結果、優勝は、フリーランスとクライアントのマッチングサービスを提案した和田壮平さん、準優勝は、アーティストのリモートライブ生配信サービスを提案したSTWONES（寺井大輔さん、加藤瑞希さん）、特別賞は、耕作放棄地を活用したオリーブ栽培を提案した北山卓司さんに決定した。また、予選敗退となったが、高校生1年生ながら最も積極的な姿勢を見せ、周囲に大きな影響を与えたとして、南 宰さんに委員長賞が贈られた。



優勝（和田さん）

準優勝（STWONES）



特別賞（北山さん）

委員長賞（南さん）

その後、総合プロデューサーの富田氏から総評があり、「仲間づくりをキーワードにこれまで取り組んできて、今日それが本当に根付いてきたと実感した。スケッチオーデションをきっ

かけに参加者・メンター・経済界・行政・審査員、全員が仲間となり、更にこのような取り組みが今後も続くと、チャレンジする人、応援する人が増え、物事が成就する可能性も飛躍的に高まっていく。今回、富山に挑戦する場ができたということが何よりも嬉しい事であり、この場を作り上げた経済界・行政・審査員の皆様に感謝を申し上げる」と述べた。



富田氏

最後に塩井代表幹事から閉会挨拶があり、「審査は、ほとんど横一線の甲乙つけがたい状況であった。入賞した方、そうでなかった方も今回できた仲間との繋がりを大切に、ビジネスプランを引き続き磨いていただき、地域経済を成長させる企業となることを期待している」とスケッチオーデションを締めくくった。



塩井代表幹事



メンターからの総評

終了後は、会員と参加者、メンター、審査員、先生方との懇親会が開催され、活発に意見を交換する様子や交流する様子が伺え、スケッチオーデションのキーワードである「ビジネスを作るとは仲間をつくること」が体現された一日となった。





委員会活動について意見交換

～ 第4回人財活躍委員会 ～

3月14日(月)第4回人財活躍委員会（中澤宏委員長）が富山電気ビルディングで開催され、30名の会員が出席した。

委員会は二部構成とし、第一部では「2021年度の総括／2022年度の活動計画」について報告、議論がなされ、第二部では「女性活躍推進」をテーマに勉強会および講演会が開催された。

第一部では人財活躍委員会の活動方針である「地方創生テレワークの推進」「U I J ターン・人材マッチングの促進」「起業支援」「外国人留学生の就労支援」「女性活躍・キャリア形成」について各担当副委員長から2021年度の実績と2022年度の活動計画の報告がなされた。



2022年度の活動について意見交換が行われ、出席した委員からは、目指すべきところと足元の実情のバランスも考慮しながら、取り組む必要がある、といった意見があった。

第二部では、まず富山県知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室 女性活躍推進課長 荻浦明希子氏をお招きし、『富山県女性活躍推進戦略～企業の成長とウェルビーイングの実現に向けて～』と題して、勉強会を開催した。

荻浦氏はまず富山県の女性を取り巻く状況について説明し、女性の就業率が高い一方で、管理職比率が低いことを指摘。背景には長時間労働を前提として働き方や女性に偏る家庭負担、企業と女性との意識のギャップなど、様々な要因が考えられるが、これらすべての



荻浦氏



根底には「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るもの」といった性別によるアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）があると訴えた。

その後は、これらの課題に対する富山県の主な支援策や目標指標を紹介、官民一体となって、意識的に取り組む必要性が共有された。

続いて、サイボウズ株式会社 チームワーク総研シニアコンサルタント 松川 隆氏をお招きし、『環境変化に対応した組織風土のつくり方～サイボウズが



松川氏

実践してきた「100人100通り」の組織風土とは～』と題して講演会を開催した。

松川氏はまず、サイボウズでは「働き方改革」や「女性活躍」といった言葉は出てこないと述べ、サイボウズが取り組んできたことはあくまで『働き方の多様化』であり、100人いれば、100通りの人事制度があってよい、という考え方を紹介した。

続けて、そのために必要な「価値観の押し付けが進化を妨げる」「わがままに対して丁寧に向き合う」「対話をする」「大切なのは情報共有」という4つのポイントについてレクチャーがなされた。

また、それらを支えたサイボウズの制度、ツール、風土について説明があり、実際に社員のわがままや対話に丁寧に向き合うことで生まれた新たな制度などの事例紹介がなされた。

最後に松川氏は、様々な形をした石で頑丈な石垣を作るように、様々な個性を活かして頑丈な組織、チームを作ることが大切であると述べ、講演を締めくくった。

その後も活発な質疑応答がなされ、委員会は盛会のうちに終了した。

2021年度総括から2022年度へ向けて

～ 第6回地域創生委員会 ～

令和4年3月17日(木)、ホテルグランテラス富山において第6回地域創生委員会（山本覚委員長）が開催され委員51名が参加した。冒頭に山本委員長より「今年度は①DX・デジタル、②観光、③医療、をテーマに、提言の実践やフィールドワーク、提言策定など委員の皆様からご協力をいただき活動を展開した。次年度も引き続き、当委員会の活動を盛り上げることを通じ富山県全体にとって有益となる取組を行っていききたい」と挨拶があった。

委員会では2021年度活動の総括として、前期提言の実践状況やフィールドワークを題材とした冊子・ウェブサイト「富山



山本委員長

の経済人が本気で考えて”またまた”実際行ってみよう！とやま1日観光コース」制作、提言「富山のウェルビーイングを下支えする医療提供体制のあり方について」の策定などが報告された。

次に、2022年度活動計画案について説明があり、新規活動計画として医療に続く「社会的課題への対応」第二弾として、スポーツ施設を核としたまちづくりを挙げ、県内の主要なスポー

ツ関連施設に関する調査や施設を活用した先進事例の調査などが盛り込まれた。

委員会後、新型コロナウイルス感染症対策を十分に実施のうえ、懇親会を開催した。懇親会では、フィールドワークを対象としたフォトコンテスト表彰式を実施した。

< 退任ご挨拶 >

・小川万里絵副委員長

「3月14日付けにて人事異動となった。観光に興味があり副委員長として1年間、観光に関するテーマを担当させていただいた。富山の観光振興はまだ課題が多いが、フィールドワーク冊子は県外からの来訪者も含め大きな効果があったと感じている。観光は人の気持ちを元気にし地域活性化に資する、当委員会のさらなる活性化を期待したい」

・吉田守一アドバイザー

「4月（末日）にてアドバイザーとして任期満了となる。委員長に就任し意気揚々と活動方針を策定したところで異動となったが、アドバイザーとして参加させていただいた。広範な活動テーマに対し、山本委員長を中心に良いチームワークで活動されたことに敬意を表すとともに、来年度も活発に活動を展開されることを期待したい」



フィールドワーク各班代表によるポイント解説

1,400枚超の作品から“珠玉の一枚”を選定

～ フィールドワークフォトコンテスト ～

地域創生委員会は令和3年10月15日(金)に実施したフィールドワーク(第3回委員会)において、参加者が撮影した写真を対象としたフォトコンテストを行った(令和4年3月17日(木)に表彰式を開催)。

フォトコンテストには、フィールドワーク参加者が撮影した1,400枚以上の写真から自薦20枚、審査員推薦73枚の計93枚の写真がエントリーされた。令和3年12月22日(水)に山本覚委員長、

小川万里絵・宮本一成・山野昌道副委員長、稲田祐治アドバイザーに加え、公募審査員(3名)を加えた計8名の審査員による審査会を開催し①景色部門、②人部門、③ベストショット部門の受賞作品を選定するとともに、この中から最も高得点の作品を最優秀賞とした(撮影者を示さずに審査を実施)。受賞作品・受賞者は以下のとおり。

「景色」部門



立山高原バスから見た雲海
撮影者：吉岡隆一郎氏
(株文苑堂書店取締役会長)



立山連峰(剣岳)
撮影者：吉岡隆一郎氏

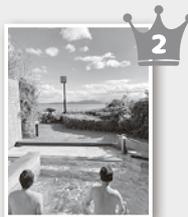


海王丸パーク
撮影者：石坂兼人氏
(石坂建設(株)取締役社長)

「人」部門



宇奈月温泉駅 足湯
撮影者：有藤直樹氏
(当会事務局長)

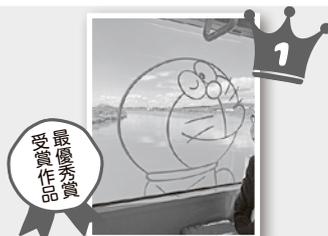


氷見阿尾の浦温泉永芳閣 露天風呂
撮影者：北澤真一氏
(株IHI北陸支社長)



瑞龍寺 住職と
撮影者：稲田祐治氏
(加越能バス(株)相談役)

「ベストショット」部門



万葉線 ドラえもん電車車内より
撮影者：高田一徳氏
(寿電設(株)代表取締役)



新湊きつときと市場 紅スワカニの屋セリ
撮影者：東澤善樹氏
(とうざわ印刷工芸(株)取締役社長)



黒部・やまびこ遊歩道
撮影者：山本覚氏
(株日本政策投資銀行富山事務所長)

「審査員特別賞」



新湊観光船 船上より
撮影者：東澤善樹氏



若鶴酒造 三郎丸蒸留所
撮影者：吉村直樹氏
(富山エフエム放送(株)取締役社長)



海王丸パーク 望遠鏡から見た蟹気楼
撮影者：東澤善樹氏

立山黒部アルペンルート視察

～ 第7回地域創生委員会 フィールドワーク事前学習 ～

第7回地域創生委員会（山本覚委員長）は4月20日(水)、2022年度フィールドワーク事前学習の一環として立山黒部アルペンルートの視察を実施し、会員13名が参加した。

電鉄富山駅から富山地方鉄道立山線等の公共交通機関を乗り継ぎ室堂に到着。晴天に恵まれた室堂で、高さ18mに及ぶ雪の大谷の見学や室堂パノラマロードを巡った。

今回、立山貫光ターミナル(株)の森信了営業課長に随行いただき、立山の特徴と魅力を解説いただいた。雪の大谷はふきだまりのため非常に積雪が多く、この大谷に積もった雪を除雪してできる雪の壁が約500mに連なり渡る絶景となっていると説明。その後、室堂パノラマロードを巡り、雄大な高峰やみくりが池、弥陀ヶ原を眼前に、先人たちが立山信仰や日本三霊山巡りにより、情報発信を工夫し、立山への誘客に知恵を絞っていたことを解説いただいた。

富山県の魅力を幅広く発信することを目的とするフィールドワークの事前学習により、立山が有する魅力と地形を体感し、地域資源の再評価と発信力強化に向けた知見を深める貴重な機会となった。



熱い応援も勝利には届かず

— 「同友会の日」 富山グラウジーズ戦 —

3月16日(水)、文化スポーツ委員会（島田好美委員長）は地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、富山市総合体育館で富山グラウジーズ対京都ハンナリーズの試合を観戦。麦野代表幹事をはじめ、会員や会員企業の従業員・ご家族など約120名が集まった。

試合前のオープニングセレモニーでは、島田委員長がアリーナ中央で挨拶し、「『同友会の日』は今年で10年目。地元プロスポーツの支援を通して富山の発展につなげ、そのエネルギーが富山の地域を盛り上げることを期待している。今日はこの応援席を赤と黒で染め上げ、精一杯応援したい」と熱く語った。

試合は、グラウジーズが序盤に一時11点をリードするも、その後は、攻撃にバリエーション



島田委員長

を欠き、シュート精度も上がらず、第2クォーターで13点を連続で奪われて逆転を許すと、第3クォーターには18点を連続で失い、一気に突き放された。

主力2選手を欠き、苦境のチームを後押しするため、同友会応援席からも大きな拍手で盛り上げ、熱い応援を送り続けたが、流れを取り戻すことはできず、ホームで悔しい連敗を喫した。2年連続のチャンピオンシップ出場に向けて、今後の勝利に期待したい。

「同友会の日」にご参加いただいた皆様ありがとうございました!!





課外授業 2021Final

～ 2021年度は25校へ延べ49名の講師を派遣 ～

2021年度の課外授業講師派遣は25校より依頼を受け、延べ49名の講師を派遣した。依頼学校数は2020年度(15校)、2019年度(14校)に対し1.7倍以上となったことに加え、コロナ禍による「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替やクラス単位での講演依頼の増加などにより派遣講師数は2020年度(19名)、2019年度(18名)に対し2.6倍以上と大幅に増加した。

第25回 富山市立速星中学校

3月4日(金)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長が富山市立速星中学校において1学年331名を対象に「夢を持とう、追いかけて、そして、かなえよう ～夢と目標と目的と～」と題し課外授業を行った。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師は1クラスを対象に講演し、他クラスの生徒は各教室にてオンライン聴講した)

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何ですか」と問いかけた。「人に喜ばれる家建てられる大工になること」と答えた生徒を称賛し「一見同じに思えるが①なれたら(できたら)いい、②なりたい(したい)、③なること(すること)、はそれぞれ①希望、②欲望、③目標を意味する。答えてくれた内容はまさに「目標」である。言葉は想いを表現する力がある」と語りかけた。

次に、人生で大事なこととして決めること、分かち合うこと、正直であることなど8つを挙げ「人生は選択の連続であり、その都度、可能な最善の選択をしている。起きたことや過ぎた時間は決して元に戻らないが、大切なのはそのことにどう“前向きな意味付け”をするかであ

る」と強調した。さらに、積極的に成長することが重要であるとし「成長を妨げるのは①卑下、②現状の満足、③自意識過剰、④傲然である。自分の可能性を信じ、持てるだけの選択肢を持つために何事にも挑戦しよう」とアドバイスした。

最後に、目的と目標の違いについて「目的(誰のために、何のために)は追及するものであり、目標(いつまでに、何を、どのように)は達成するものである。人生の目的を早く見つけると目標は立てやすいが、小さな目標を達成していくうちに目的が見えてくる。夢を見つける秘訣は、常にアンテナを高くし喜怒哀楽の感性を磨くこと。達成することを五感でイメージし、強い意志を持って積極的に挑戦しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「古代ローマの政治家・セネカの像を観に行くことと、課外授業を通じ、皆さんが夢を持つてくれることが私の夢」と遊道社長

「人生を幸せにする3つのコツ」

山野昌道氏・富山県市町村新任職員研修で講演

4月25日(月)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長が富山市を除く県内14市町村の新任職員約180名を対象にオンライン講演を行った。

山野社長はまず、「なぜ働くのか」を新任職員に問いかけ、社会は皆でつくるものであり、皆それぞれに役割がある。働くということは、社会をつくっていく一員になることであると説いた。

続けて、自分のやりたいことや本当の自分はそう簡単にはわからない。それでも、本当にやりたいことを見つけたいと思ったら、考え続け、行動し続けるしかない。何事もやってみないとわからない。やった時の後悔よりもやらなかった時の後悔の方が大きい、と行動することの大切さについて自身の半生を交えながら語った。

さらに、やりがいのある仕事は、必ず辛くて厳しい仕事だったという自身の経験から、様々なことにチャレンジして、苦勞して、その結果が出ればこれは必ずやりがいになる。苦勞のないところにやりがいはない。より大きな達成感を得たいと思うのであれば、より苦

勞するしかない述べた。

次に、人生を幸せにする3つのコツとして「迷ったらやる」「人のせいにしない」「何をやってもうまくいく」を紹介した。

「迷ったらやる」：行動しなかったら楽しいことは起きない。やるかどうか迷ったらやる方を選ぶべき。

「人のせいにしない」：人間はすぐに人のせいにしたくなるが、人のせいにしたところで、何も変わらない。自分で行動し、自分で変えていかなければならない。

「何をやってもうまくいく」：ポジティブシンキングをする。新しいことをやることは怖いことで、特に公務員であれば、今までと違ったことはやりにくいと思うが、新しいことをやっている人の方が、充実した人生を送っている。

最後に、幸せな人生とは、「夢や目標に向かって努力できること」、「人のために生きられること」だとし、努力することの大切さを強調するとともに、「公務員は人のために生きられる職業だから、思いやりを持った優しい人になってほしい」と激励し、講演を締めくくった。





どうにもこうにもならないこと

牛島 政彦

(株式会社第一電工舎 代表取締役)

私は小学4年生の頃からサッカーを始め6年生の時にK N B杯で優勝し全国大会へ出場。高校時代はインターハイ富山県ベスト4。社会人リーグにも所属し、40歳半ばまでプレーを続けてきた。学校の体育授業の成績はいつも5。そんな自称スポーツマンの私にとって歯がゆいほど、どうにもこうにもならないものがある。それはゴルフというスポーツである。

今まで何度、自分のことを棚に上げ、他人の失敗を心で願ったことだろう。今まで何度、表彰式で最下位の挨拶をしてきたことだろう。でも本当は全然悔しいとは思ってなかった。ゴルフ場が主催する競技は別として、私が主にプレーするのは企業や団体が主催する懇親ゴルフ大会であり、実際にボールを打ったスコアにハンデというおまけがついて順位が決定されるからだ。誰にでも優勝のチャンスがあるよう、新ペリ方式というハンデの算出方法により、その日スコアがそこそこで運が良くハンデがたくさん付いた方が優勝。自分にとってゴルフ大会はある意味、商店街のくじ引きのようなものであると長い間思い続けてきた。

そんなゴルフに対し後ろ向きであった私に転機がやってきた。それは高校の同期会である。大のゴルフ好きであり、お世話好きな同期会メンバーの一人の提案で毎月、同期会定例ゴルフ会を開催することとなった。その日出会った知らないおじさんにゴルフが下手だと思われようが全く気にしなかったが、同期生にはグサイとは思われたくない。負けたくない。奮起するなら今しかないと心に誓ったのであった。

まずは、手始めにレッスンに行ってみた。ゴ

ルフを始めてガラガラ約30年。体にしみついたダメな癖を指摘されたにもかかわらず、コーチの言ってることに疑念を抱き、二度とレッスンに行くことはなくなった。次にある先輩に相談したところ、クラブが体に合っていないのかもしれないという提案を受け、ゴルフクラブの匠のもとへ。お金をかけてクラブが自分に合うようセッティングを行った。しかし何も変わらなかった。スイングに問題があるのだから冷静に考えれば道具ではなく自分が悪いと何故気づかなかったのだろう。

今は、便利なもので、YOUTUBEという動画サイトでゴルフレッスンと検索すれば、たくさんのレッスンプロが画面に登場し色々なアドバイスを受けることができる。しかし、画面のレッスンプロはそれぞれ違うこと言っている。何が正解か全く分からなくなってしまった。ゴルフ理論で頭でっかちになり体が思うように動かない日々が続くことに。

現在チャレンジしているのは、Mトレーサーという最新の機器。駒のような機器をゴルフクラブの付け根に挿入し、ボールを打つとiPhoneにスイングの軌道や様々な指標から分析された点数が表示されるのだ。最初は42点。購入から約2カ月経過し今は50点。まだまだ先は長そうだ。ちなみに機器が正確なのか疑念を抱き、上手な先輩に試してもらったが、残念なことに90点と表示された。機器は壊れてないようだ。どうにもこうにもなりそうもない日々はまだまだ続きそうだ。

(次号は(株)ユニバーサルパッケージ
代表取締役の林 清滋 様です。)

活動報告

3月1日～4月30日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
3月7日(月) 16:30～18:30 オークスカナルパーク 富山	3月幹事会・会員定例会（地域創生委員会主管） 講師：東急(株)（合同会社うさぎ企画 代表）森田 創 氏 演題：「MaaS がもたらす地方社会の未来」	約160名
4月12日(火) 16:00～17:00 富山電気ビルディング	4月幹事会	60名
4月22日(金) 16:30～19:40 ANAクラウンプラザ ホテル富山	2022年度定時総会・懇談会	約200名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
3月11日(金) 15:00～17:00 事務局会議室	人財活躍委員会 第6回正副委員長会議	・2021年度活動報告 ・2022年度活動計画	9名
3月14日(月) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第9回正副委員長会議	・2021年度の活動報告について ・2022年度の活動内容・スケジュール について	9名
3月14日(月) 16:00～19:40 富山電気ビルディング	第4回人財活躍委員会	・2021年度総括 ・勉強会 講師：富山県知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室 女性活躍推進課長 萩浦 明希子 氏 演題：「富山県女性活躍推進戦略」 ・講演会 講師：サイボウズ(株)チームワーク 総研シニアコンサルタント 松川 隆 氏 演題：「環境変化に対応した組織風 土の作り方」	30名
3月16日(水) 14:00～14:30 富山経済記者クラブ	地域創生委員会	医療提言発表	3名
3月17日(木) 17:30～20:10 ホテルグランテラス 富山	第6回地域創生委員会	・提言（医療）について ・フィールドワーク冊子・サイト制作 について ・今年度活動総括・来年度活動計画に ついて	51名
3月19日(土) 富山大学黒田講堂	人財活躍委員会	スケッチオーデション（予選大会）	約60名 内会員7名
3月21日（月・祝） ホテルグランテラス 富山	人財活躍委員会	スケッチオーデション（決勝大会）	約70名 内会員18名
3月23日(水) 11:00～12:30 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第7回正副委員長会議	・2021年度の活動報告について ・2022年度の活動内容・スケジュール について	11名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
3月30日(水) 11:00~12:45 事務局会議室	教育問題委員会 第4回正副委員長会議	・各グループ経過報告 ・来年度活動計画について	9名
4月11日(月) 11:30~13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第10回正副委員長会議	・2022年度の活動内容・スケジュール について	10名
4月19日(火) 16:00~17:30 事務局会議室	人財活躍委員会 第7回正副委員長会議	・新体制と役割分担について ・2022年度活動計画について	11名
4月20日(水) 9:05~18:40 立山黒部 アルペンルート	第7回地域創生委員会	・2022年度フィールドワーク事前学習 (立山黒部アルペンルート視察)	13名
4月21日(木) 11:00~13:00 事務局会議室	企画委員会	・今年度の活動計画について	6名
4月27日(水) 17:00~18:30 事務局会議室	教育問題委員会 第5回正副委員長会議	・2022年度の活動計画について	9名
4月28日(木) 16:30~17:30 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第8回正副委員長会議	・2022年度の活動内容・スケジュール について	10名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
3月4日(金)	富山市立速星中学校	1学年331名	遊道 義則 氏 「夢を持とう、追いかけてよう、そして かなえよう～夢と目標と目的と～」

○同友会諸会合

開催日	内 容	出席者
4月14日(木) 13:00~15:30	第34回全国経済同友会セミナー(特別プログラム) ①基調講演:ウクライナ危機が示した世界秩序の動揺 講師:小野寺 五典 氏(元防衛大臣) ②パネル討議:経済への影響と日本の対応 モデレータ:吉崎 達彦 氏 パネリスト:鈴木 善久 氏 伊藤忠商事 副会長他	オンライン

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
3月4日(金)	第3回とやまスタートアップ戦略会議	富山県庁	麦野代表幹事
3月10日(木)	令和3年度女性の活躍推進委員会	富山県庁	中澤人財活躍 委員長
3月16日(水)	「同友会の日」富山グラウジーズ応援	富山市総合体育館	約120名
3月25日(金)	第3回富山県SDGs推進連絡協議会	富山県民会館	有藤事務局長
4月17日(日)	環境省「環境政策にかかる全国行脚(富山県)」 意見交換会	富山県民会館	東澤幹事

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和4年春の叙勲、褒章において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。
心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

旭日双光章



梅田 ひろ美 氏
(株)ユニゾーン 取締役会長
(当会 幹事)

藍綬褒章



若林 啓介 氏
(株)若林商店 取締役社長
(当会 特別幹事)

会員の入退会

(3月・4月幹事会)

1. 最近思うこと(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

入会



あか まる じゅん いち
赤丸 準一
大成ロテック(株)北信越支社
顧問
(紹介者: 麦野英順氏)



かつら ぎ つよし
葛城 豪
日本放送協会富山放送局
局長
(紹介者: 石倉 央氏)

1. エネルギー価格の上昇とウクライナ情勢の緊迫化により、全ての物が値上がりしており、インフラ投資・人材投資等、政府・民間が一体となって経済対策を早急に打つ必要がある。
 2. 『本気』本気ですれば大抵のことはできる。
本気ですれば何でもおもしろい。…後藤静香
 3. スポーツ(観戦含む)、音楽鑑賞(生演奏)
1. 8月29日(月)にNHK 富山新放送会館がオープンします。これを機に、さらに地元富山に貢献し、皆様に親しまれ、愛される放送局を目指します。ぜひご期待下さい。
 2. 出来ない言い訳をせず、どうすればできるかを考える。
 3. サイクリング、キャンプ、スノーボード



しば ぐさ てつ お
柴 草 哲 夫
(株)日本PMコンサルタンツ
専務取締役
(紹介者：山田秀夫氏)

1. 設計事務所でもない、ゼネコンでもない、「施設の参謀」として、お客様の立場に立って、建設にまつわるお悩み解決のお手伝い
コンストラクション・マネジメント(CM)業を北陸に根付かせたい。
2. 心身ともに健やかに過ごす。(できるだけ)
3. 飲み食い、料理、ヴァイオリン、散歩など



た なか ひとし
田 中 仁
リコージャパン(株)
富山支社長
(紹介者：麦野英順氏
塩井保彦氏)

1. 社会環境が大きく変化する中で、お客様のDX支援、ESG、SDGsといった重要課題を事業活動と同軸化することで、持続可能な社会に貢献してまいります。
2. 天網恢恢疎にして漏らさず
3. スポーツ観戦、読書

交代



い か だ し ょ う へ い
五十田 昇 平
(株)日建設計
北陸支所長
(前：安藤涉二氏)

1. 新型コロナによる新しい生活様式の要求やSDGs等の環境課題への取組など、建築・都市・社会環境に関わる課題は複雑化しており、解決へ向けた糸口を探求しております。
2. 今日、一日の区切りで生きる
3. 登山、ゴルフ、キャンプ、スノボ、庭作り



い が ら し か ず お
五十嵐 一 雄
三機工業(株)
執行役員北陸支店長
(前：鹿田晃彦氏)

1. 社員とのコミュニケーションを大切にし、誰とでも意見を言い合える環境を作り出して活気のある事業所にしたいと思います。
2. 一念天に通ず
3. スポーツ観戦 (特にテニス)



か わ か み か つ と も
川 上 勝 大
大和ハウス工業(株)
富山支店長
(前：井原健至氏)

1. 長期視点をもって人・街・暮らしの価値共創グループとして事業を通じた社会、地域課題の解決に邁進したいと思います。
2. 感謝の気持ちと素直な心、謙虚な姿勢
3. ゴルフ、旅行、グルメ



き む ら と し や
木 邨 俊 哉
三井住友ファイナンス&リース(株)
富山営業部長
(前：横溝 康氏)

1. コロナ禍、ウクライナ情勢による資源高騰により、皆様の業務に影響が出ておられるかと思っております。リース及びその他サービスにより少しでもお役に立てればと考えております。
2. 人間万事塞翁が馬
3. サーフィン、高校野球観戦



くら た しの
倉 田 聡 史
大和証券(株)
富山支店長
(前：古屋里恵氏)

1. 目まぐるしく移り変わっていく金融業界の中で、証券会社として日本経済発展のために、そして地域経済発展のために一体何ができるのかを常に考え、業務に励んでおります。
2. 努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのならば、それはまだ努力と呼べない。
3. 散歩（最近、犬を飼いました）



こ ばやし し
小 脇 保 志
みずほ信託銀行(株)
富山支店長
(前：西野秀明氏)

1. 先日は盛大な懇親会に出席させていただき、ありがとうございました。富山のパワーを実感することができました。微力ながら富山経済の発展のために貢献していきたいです。
2. 率先垂範
3. ジョギング、スポーツ観戦(特にサッカー)



う づ の み ち
流 石 稔
損害保険ジャパン(株)
富山支店長
(前：越川 誠氏)

1. コロナ以前とは違う視点で、デジタル・トランスフォーメーションや公的分野のデジタルを活用しながら常にお客様目線での商品やサービスをお届けしていきたい。
2. 一念天に通ず：諦めることなく強い信念を持って物事に臨むこと。
3. ゴルフ、読書



せ き ど ま さ ひろ
関 戸 正 浩
住友生命保険（相）
富山支社長
(前：阿川和信氏)

1. 人生100年時代を迎え県民の皆様がいつまでも心身共に健康で幸せに暮らせること、県民の皆様へのウェルビーイングに貢献すべく職員一丸となって社業に取り組んでまいります。
2. 確実を旨とし浮利に走らず冷静克く進取不屈の精神を堅持し大局を誤ることなきを期する。
3. 肴と日本酒とワイン、靴磨きに没頭すること。



た か き あ き ひろ
高 木 章 裕
(株)タカギセイコー
代表取締役
(前：八十島清吉氏)

1. カーボンニュートラルへの世界的な動きを商機ととらえ、創業以来培ってきた技術と独創性をもって、持続可能な社会の実現に貢献するソリューションを提供してまいります。
2. 日々に新たにして、又た日に新たなり
3. テレビラジオ中継（野球、相撲、米PGA）



た な か ひで のり
田 中 英 敬
日本銀行富山事務所
事務所長
(前：小川万里絵氏)

1. 当たり前になっていたことが、もの凄いスピードで変貌を遂げる昨今に、驚いてばかりです。多くの方との交流を通じて、少しでも富山の発展に貢献できればと願っています。
2. 天は自ら助くる者を助く
3. 旅行、アウトドア



たま い ひで のり
玉 井 秀 紀
三菱電機(株)北陸支社
富山支店長
(前：井口謙吾氏)

1. 世間にご迷惑をお掛けしている事もあり、信頼回復を第一に考えながら営業活動をしております。
2. 初心忘るべからず
3. 野球観戦、ドライブ、温泉旅行等



まる た やす おう
丸 田 康 央
(株)福井銀行
富山エリア統括店長
(前：長谷川慎治氏)

1. 日本経済全体がシュリンプしていく中で、いかに地方経済を活性化させていくかが課題であり、各地域で地道に活動継続していくことが重要だと考えます。
2. 「ピンチはチャンス」と捉え、日々業務に従事しております。
3. ゴルフ



にし の はる ひと
西 野 晴 仁
(株)福見建築設計事務所
代表取締役
(前：堂田重明氏)

1. ロシアのウクライナ侵攻などこれまで考えられなかった事が進行し、新たな変動の時代が来てしまったと思っています。事業環境も、大きく変わっていくかもしれません。
2. 健康第一
3. 旅行（建築見学）



よし かわ だい すけ
吉 川 大 介
(株)三菱 UFJ 銀行
富山営業部長
(前：西川大城氏)

1. 環境変化が激しく、先が見通せない世の中だからこそ、富山の皆さんのお役に立ち、「富山が進むチカラになる」べく、全力で取り組んで参ります。
2. 相手を思いやり、認める事から全ては始まる。分かり易く、シンプルに。そして笑顔で。
3. スキー、スポーツ観戦

退 会

片 岡 健太郎 デンカ(株) 北陸支店長
藤 井 邦 之 日本製鉄(株) 北陸営業所長
吉 田 大 介 無線パーツ(株) 代表取締役

(令和4年4月12日現在 会員数424名)

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

<富山経済同友会事務局メンバー>

事務局長 ありとう なおき 有藤 直樹 (株)北陸銀行
(企画、交流)

事務局次長 うめの ゆうま 梅野 裕真 (北陸電力(株))
(人財活躍、企画(副担当)、交流(副担当))

主席経済交流員(新任) てらにし えり 寺西 恵理 (富山県)
(企業経営、教育問題)

主席経済交流員(新任) せん だ まさたか 泉田 将孝 (富山市)
(地域創生、文化スポーツ)

事務局員 ふくだ まさみ 福田 正美

なお、4月1日付で石田典子氏(前 主席経済交流員)は富山県商工労働部労働政策課へ、吉川賢一氏(前 主席経済交流員)は富山市建設部建設政策課へ帰任致しました。

今後ともよろしく願い申し上げます。

提言書を富山県知事に手交

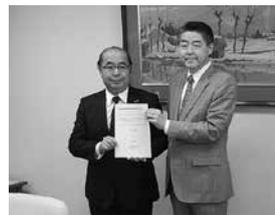
牧田代表幹事、山本覚地域創生委員長は、4月25日(月)県庁を訪ね、新田八朗知事に提言書「富山のウェルビーイングを下支えする医療提供体制のあり方について」を手交した。

山本委員長から現状分析と富山医療圏の高度急性期・急性期医療提供体制の現状と課題を説明した。

牧田代表幹事から「医療機関のゆるやかなアライアンス（提携）が必要」とし、患者に寄り

添った県民のウェルビーイングの実現に向けた、富山県全体における持続可能な医療提供体制のあり方に関する議論開始を求めた。

本提言を受けて、2024年度にスタートする富山県の次期医療計画策定に向けた議論が本格化することが期待される。



新田知事へ手交

富山の魅力を幅広く発信

～地域創生委員会、昨年に続き、フィールドワーク冊子・ウェブサイトを制作～

地域創生委員会(山本覚委員長)は、昨年に引き続き、冊子及びウェブサイト「富山の経済人が本気で考えて またまた 実際行ってみた!とやま一日観光コース」を制作した。

当会の取組や富山の魅力を幅広く発信することを目的に、今回は、富山県内を1日かけて巡るフィールドワークを行い、地域創生委員会委員より公募した23のプランの中から10行程を選定し、委員・会員計40名が10つの班に分かれて実

施したもの。

制作した冊子は、県内主要駅や空港の案内所、ホテル、コンベンション施設などに設置されている。ウェブサイトと併せて県外からの来訪者のもとより、県内在住の方にも富山の魅力を改めて知ってもらうためのツールとしての情報発信を行っている。



今後の予定

開催日	対象	行事	場所
6月18日(土)	あけぼの会会員	第82回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
7月27日(水)	幹事以上	7月幹事会	ホテルグランテラス富山
7月27日(水)	全会員	7月会員定例会(文化スポーツ委員会主管) 講師：NSGグループ 会長 (株)アルビレックス新潟 取締役会長 池田 弘 氏	ホテルグランテラス富山
8月29日(月)	新会員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	オークスカナル パークホテル富山
9月10日(土)	あけぼの会会員	第83回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
10月3日(月)	正副代表幹事 交流委員会 担当委員長等	経済同友会中央日本地区会議	福井県あわら市 (福井経済同友会主管)

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

〔表紙写真〕

スケッチオーデション決勝大会

人財活躍委員会は伴走支援型ビジネスプランコンテスト「スケッチオーデション」を開催した。

半年間の学びを活かし、創意工夫がされたビジネスアイデアが発表され、会場は大いに盛り上がった。

発行所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電話 (076) 444-0660

FAX (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



昭和56年 8月 立山～剣岳にて



無謀な若造

北陸電気工事株式会社 取締役社長

矢野 茂

写真は、昭和56年8月 社会人2年目で、友人と2人でテントを担いで、立山雄山から縦走して剣岳に上り、剣岳の山頂から歩いてきた道を振り返っているところです。

中高生の時から写真が好きで、SLを追いかけて、カメラと寝袋を持って日本全国、北は北海道から南は九州まで追いかけていました。SLが廃止されて被写体が少なくなると、動物写真を狙って野生の馬や猿とかを追いかけおりました。(まとまった休みがあると、よく放浪していました)

大学生になって、登山に目覚めてからも、基本的に放浪癖というか、その無謀さは変わらず、今思うと、かなり無茶な行動をしておりました。

写真の立山～剣岳は、友人も居ましたので、そんなに無茶な山行ではありませんでしたが、この直後の9月に、奥穂高岳から西穂高岳への縦走をしているのです。このルートは、かなり道

が悪く、ジャンダルムの通過など険しいところで、山のガイドによると、熟練のリーダーのもと慎重な行動が要求される場所でありました。

しかし、当時の私は、今よりもかなりスリムで体力にも自信があり、天候が良さそうな日でしたので、単独行で決行しました。途中まで行って、これは結構やばい所に足を踏み入れてしまったと身構えました。慎重にゆっくりと、ルートを進めるうちに、別のパーティと一緒にになり、正直、心強くてほっとしました。無事にこのルートを終えた時は、安堵感とともに本当にうれしかったのを覚えています。

今、会社で安全第一と声高に叫んでいる自分が、昔、かなり無謀だったということで、褒められた話ではありませんが、こうした経験を経て、事前調査を十分に行い、人の話を聞き、慎重に計画を立て実行に移す大切さに気付く、きっかけにもなったと思っています。